

学校経営ビジョン

Think global, Act local. 「自立と自律」「感謝」「貢献」
～生徒の主体的な取組を通して、伸ばせ個性・引き出せ個性～

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	<p>目標：確かな学力の向上 学びに向かう力を高める授業創り</p> <p>■手段・ゴールイメージ 1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ・単元を貫く授業創りの教材研究・実践 ・指導の個別化、学習の個性化の具現化</p> <p>2 一人ひとりの学びに向かう力を伸ばす ・探求学習、家庭学習、検定試験等へのチャレンジ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区実力テストやみやざき小中学校学習状況調査の結果で学力の伸びが見られた。生徒一人ひとりが問い合わせをもち、なかまとなって学びあい、深く考える力を育む「ひなたの学び」を中心にした校内の主題研究を通じた授業改善の成果が表れている。 教師間で相互授業参観期間を設定し、お互いの授業を参観した。意見交換したり、他の先生方の工夫点を取り入れたりするなどして授業力の向上につなげることができた。 日常的に協働的な学びの実践が行われていることで、生徒間では遠慮なく自己の意見を言い合える雰囲気ができている。 ○ 参観日を通して家庭学習の在り方やメディアコントロールについて保護者と共有することができた。ノーメディアデーを設定したことは、意識付けにつながった。メディア使用時間と学習時間のバランスが取れていないと感じている保護者が多く見られた。教科によってはタブレットを使った課題を設定したり、学力コンテストを設定したりすることで、家庭学習の在り方の変容がみられた。 検定試験等のチャレンジに対して肯定的な意見が伸びているのは、授業での有用性を説明し啓発したことがつながっている。 	2. 8	3. 4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業が分かりやすいと答えている生徒が多いところは、先生方の授業力向上に向けた研修の成果だと思う。 家庭学習の充実は、学力向上につながるポイントであることは理解できた。タブレット活用の充実など深めてほしい。 ○ メディアコントロールは、本校生徒の課題であり、保護者も考えてほしい。保護者と問題を共有することで、学力向上にもつながると思う。ノーメディアデーの設定なども取り組むとよい。
徳育	<p>目標：豊かな心の育成 学びの態度の向上 自立と自律 感謝 貢献</p> <p>■手段・ゴールイメージ 1 探索的な学習によるキャリアの推進 ・総合的な学習の時間、特別活動 ・コミュニティスクール、外部人材の積極的な活用</p> <p>2 感性豊かな心を育む情操教育の充実 ・生徒会の充実（校則の見直し、自治能力の向上） ・いじめの早期発見、解消100% ・読書活動の推進、計画的な作品応募</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級活動や総合的な学習の時間で計画的に探究的なキャリア教育を推進することができた。1年生は、フィールドワークとして小林市を採訪した。2年生は修学旅行で実地調査を行った。3年生は校外での調査や体験を通して小林の今と向き合い未来を考えるテーマに未来予想図発表会を行った。それぞれの学年がロードマップをもって取り組むことで、学びに向かう力の育成や思考力・判断力・表現力の育成につながった。 ○ 生徒会活動を活性化させるために体育大会や駅伝マラソン大会、無限の命集会など生徒会が学校行事の企画・運営することで自主性の育成につながることができた。その中で、学年が入り混じる縦割りのグループ編成を積極的に取り入れ、リーダーの育成や協調性を育むことができた。 いじめの早期発見については、毎月アンケートを実施した。サポート委員会を毎週実施し、職員間で共通理解を図り、気になる生徒については計画的にスクールカウンセラーによるカウンセリングにつなげた。いじめ解消について100%にすることはできなかったが、家庭と一緒に見守りを継続することができた。 読書活動については、読書を行わない不読者を減らす取り組みとして、ひなた電子図書館サービスを利用した。今後は、その普及についての工夫が必要である。 	3. 0	3. 6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な体験活動や地域人材の積極的活用を行っている取組があつた。特に立志式に参加した際には、保護者や地域の方と対話をする生徒の姿を見ると非常に頼もしかった。 ○ 小規模校の特性を生かし、積極的に異学年交流を取り入れたり、生徒会を中心企画運営させたりすることは、自立につながりとても良いことである。 地域活動（8月の清掃活動等）に中学生の参加が少ない地区もある。理由として部活動等があげられるが、その日は計画的に地域活動を優先させてほしい。 読書については、不読率の減少に努めてほしい。
体育	<p>目標：健やかな体の育成 心と体のセルフコントロール</p> <p>■手段・ゴールイメージ 1 体力向上プランの実践 ・一人ひとりの適切な目標設定と体力向上の取組</p> <p>2 心身の健康増進の推進 ・健康診断の活用、フッ化物洗口等の予防対策 ・相談環境、居場所づくり、支援体制等の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テストの結果を受けてスポーツプランを策定し、個人や学校の課題に応じた体力を高める運動を年間通して実施することできた。生徒会企画の体力づくり活動を充実させたことで生徒の体力づくりに対する肯定的な意見が増えた。 ○ 健康診断の結果から虫歯治療などが必要な生徒に対して学級担任を通して呼びかけを行ったことで治療につなげることができた。今後も粘り強く治療の必要性に関する健康指導を行うことや家庭との連携を図る必要がある。 心身の不安定な生徒に安心な場所を提供するため空き教室を利用し、相談室を増室した。 	3. 5	3. 6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の生徒は、昼休みも外で元気に遊ぶ生徒が多い状況にある。運動に対する取組の2極化が進む中で、地域のマラソン大会等のイベントも大事にしてほしい。 ○ 虫歯治療などの治療率向上のために、学校側がねばり強く生徒や保護者に呼び掛けている状況が分かった。 心身の不安定な生徒に安心できる場所を提供している状況が見られた。
食育	<p>目標：健やかな体の育成 食と心身の健康の関係を意識して</p> <p>■手段・ゴールイメージ 1 バランスのよい食生活の推進 ・給食指導、食育指導（学級活動）の充実 ・お弁当日の設定・実施</p> <p>2 食物アレルギーに関する正しい理解と実践 ・学校薬剤師、給食センター等の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭科での栄養バランス等についての話をすることにより、食育に関する肯定的な意見が増えている。定期に「お弁当の日」を設定することで効果が表れている。食事のマナーについては、今後も継続して指導していく。 ○ 学校薬剤師を講師として招き、4月にエピペンの使用方法、7月にアレルギーに関する講話、1月に給食センターと連携した集会を実施した。 	3. 5	4. 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ にっこばまちづくり協議会の婦人部が協力し、調理実習を行うなど積極的な取組があった。地域の方も食育を通じた生徒との交流は好評であった。 ○ 今後も計画的に講習会や授業を行うなどして取り組んでほしい。
その他	<p>目標：働き方改革の推進</p> <p>■手段・ゴールイメージ ・出退勤時間の計画的な運用（時差勤務の試行・実施） ・ライフバランス及び心の充電を図る積極的な休暇取得 ・部活動の地域以降に向けた検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時差勤務の試行及び実施を今年度から始め、職員のワークライフバランスを考え効果的に実施することができた。 部活動については、3つの部活動に外部指導員を配置し、専門的な指導者を配置することで、地域移行を兼ねた部活動の活性化につなげることができた。 	3. 4	4. 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度に時差勤務を実践できることはとても良かった。一般会社等に比べて学校は遅れている。積極的に取り入れて働きやすい職場にしてほしい。 ○ 防災の意識を地域と一緒に高める取組を楽しみにしている。
次年度の方向性についての校長所見	<p>生徒が主体となった取組を「知育」・「德育」・「体育」・「食育」の核として実践することで、生徒一人ひとりの個性伸長につなげることができた。</p> <p>今後は、自分の夢や目標を見つけながら「自立と自律」「感謝」「貢献」の心をさらに育める教育活動の充実が図られるよう、生徒及び保護者、教師が、実態にあつた課題意識をもち、一人ひとりが自分ごととして取り組めるようにしていきたい。また、令和6年度は地震をはじめとする自然災害について危機意識が高まる年であった。地域と共に命を守るために何ができるかを検討し、常時危機意識も高めながら、地域に貢献できる人材育成にさらに努めていきたい。</p>				